



明治2年、蝦夷地が北海道と改められると、利尻島は北見国利尻郡になりました。島は鰺漁で賑わいはじめ、次々に網元が漁場を持ち、主に東北や北陸地方からヤン衆と呼ばれる漁夫が集いましたが、漁が終わると彼らは引き潮のように去っていくのでした。

明治4年の利尻郡の出稼戸数は60戸と記録され、まだ永住者は一人もいませんでした。ところが明治15年に鰺の漁獲高が1万2500トンを超える頃には人々が定住し、海産物仲買、回漕（運送）屋、雑貨屋、金物屋、呉服屋、料理店、旅館、病院などが軒を連ね集落を形成しました。翌明治16年には、政府は「国後諸島択捉及び北見地方に汽船を航せしむ」ことを共同運輸会社（のちの日本郵船株）に命じます。

そのことを見越していたのか、同明治16年、利尻島に今ヤマツの屋号をかかげた津田商店が誕生します。

予定通り明治18年には、小樽利尻礼文航路が就航し、商都小樽を介し利尻の鰺鮓や昆布などが本州に輸送され、島には生活に必要なあらゆる物資と最新の文化が運ばれ、利尻は発展していくのでした。利尻の老舗中の老舗、津田商店を訪ねました。



①店内風景。日本酒・ビール・焼酎・ウイスキー・ワインなど豊富な品揃えで、一般店頭販売、贈答品、発送、飲食店・ホテルへの業務用卸売も行っている。各種イベントにも柔軟に対応し、ビールサーバーの貸出も行っている。②カラフルな外観。

電気工事士・ホテルマンを経て

「私で6代目になります。明治16年創業ですので、143年もの間、津田商店はズーッと利尻島の暮らしのそばにありました。

伝え聞いたところでは、創業地はここ（利尻町杓形）ではなく、鰯泊（いわしぼり）（利尻富士町）で鉄工所としてスタートしたようです。それから2、3年後に金物屋として杓形に移転し、やがて酒屋がメインになっていきました。酒屋と言っても雑貨品も扱いますから、よろずや的な要素を強め、その後は時代の変化に合わせてプロパンガス事業、照明交換やエアコン工事などを行う電気工事業、家電事業では販売から取付・修理・メンテナンス・リサイクルまでお引受し、

高橋 哲也さん

有限会社 ヤマツ 津田商店 代表取締役 6代目

島の子どもたちが大人になった時、「利尻島出身ですー」と胸を張って言えるようにしたい。

さらにキャンプ用品などを扱うアウトドア事業、釣具は販売だけではなくレンタルも行い、島のインフラ機能を担いながら、島民の暮らしに寄り添ってきました。

私は生まれも育ちも利尻で、利尻高校卒業後は地元の利尻電業株に17年間お世話になりました。しかし、後半の5年間は、電気工事士（第一種取得）としてではなく、ホテルマンとして当時利尻電業株が経営していた『アイランドインリシリ』（現在三井観光株が取得）へ異動することになりました。

ホテルではチェックイン・アウト業務、電話対応、ベッドメイク、レストランのヘルプ、売上計算などなど、休むヒマがないほど激務でした。



利尻昆布梅酒、利尻昆布焼酎
Kamui Whiskyも絶賛取扱中。

「麗峰の雫 特別純米酒」は食中酒として最中で、刺身や海産物などと一緒におすすめ。
●箱付き720ml/2,200円
●箱なし720ml/2,000円
「麗峰の雫 純米大吟醸」は、肴なし、お酒オンリーでもいける。天ぷらやチーズなどとの相性も抜群。
●箱付き720ml/4,000円
●箱なし720ml/3,800円

※いずれも消費税込み。
※300ml小瓶もあり。

資格は、第一種電気工事士（北海道 第SY0012号）をはじめ、液化石油ガス設備士、高圧ガス販売主任者などを取得している。



誰に見られても
恥ずかしくない
島をつくりたい

私の信条

杓形本町にとどまらず、市街地の約80%を焼き尽くしたと言われる昭和39年に起きた「杓形大火」。津田商店にも火の手が上がり、2階は焼失したものの1階のこの事務所だけはコンクリート造りだったため奇跡的に残ったという。

スタッフは全員島外出身者で、みんな利尻が好きになった人ばかりとのこと。



せん。なかには利尻に移住してくれたり、結婚された方もいるほどです。BARはお酒を紹介し、人と人の縁を取りもっているのです」

地酒開発プロジェクトの推進

「同じ平成30年、礼文島の酒屋さんも巻き込んでSINA酒造りプロジェクトを立ち上げ、利尻の「麗峰湧水」を仕込水に使用した地酒を開発しました。『麗峰の雫 特別純米酒』は北海道の酒米・吟風を使用しスッキリとした淡麗辛口の仕上がりに。『麗峰の雫 純米大吟醸』は別の北海道産の酒米・慧星を使用し、精米歩合40%まで磨いているため、くちあたりがまるやかでフルーティです。

いずれも自分たちで毎年20ℓのポリタンク50本+50本を道内の酒蔵に送り届けるなど大きな労力や輸送費が伴いますが、おかげさまで大変評判が良く、他の飲食店にも置いていただいています。町営のホテル利尻ではお飲み物のメニューに加えられ、アイランドインリシリでは夕食ビュッフェの際、飲み放題に含まれるなど、知っていただく絶好の機会に恵まれました。もちろん銘酒BARでも味わえます。ふるさと納税返礼品以外、島内でしか買うことができないことも価値を高めています。

立地する仙法志元村は明治時代に福井県からの移住者が築いた地域。



「OCEAN」は島を出ますが、彼らにとって利尻が誇らしい故郷であり、そして可能性に気づいてくれたなら、いつか新風をまとうって帰ってくるのではないでしうか」



HP

Company Profile

（有）ヤマツ津田商店

利尻郡利尻町杓形字本町55 ☎0163-84-2050 ④0163-84-3107

■事業内容／酒類小売業、レンタル業、飲食業、ガス販売業、家電小売業、電気設備工事業ほか

■創業／明治16年 ■資本金／300万円 ■社員数／役員2名、常勤1名、パート5名 ■営業時間／8:30～18:00（日曜定休）

高橋 哲也さん

昭和52年5月利尻町生まれ。利尻高校卒業後、利尻電業株に17年間勤務。

平成25年、妻の家業を継ぐため退社し、（有）ヤマツ津田商店に入社。翌平成26年、代表取締役就任。

平成30年『銘酒BAR Tecchi』開店。令和6年、（有）ENISHIを設立し代表社員となり、翌令和7年より一棟貸簡易宿泊施設の営業開始。

Personal Profile